

## 霧島山

### 概況

御鉢火口の噴気活動は、監視カメラで時折、御鉢火口縁上に噴気が上がっているのを観測するなど、消長を繰り返しながらやや活発な状態が続いています。

御鉢付近を震源とする火山性地震は前月よりやや増えました。

### 噴気活動の状況

御鉢火口内の噴気活動は、消長を繰り返しながら、やや活発な状態が続いています。監視カメラによる観測では、御鉢火口縁上から高さ 50～200m の噴気が時折上がっているのが観測されました。噴気高度の最高は、8 日と 24 日の 200m でした（図 3）。

新燃岳火口周辺では、噴気活動に大きな変化は認められませんでした。

### 地震・微動活動の状況

霧島山の地震回数（気象庁観測点 A 点）は、168 回（8 月：85 回）でした（図 1 の）。

震源が求まった地震は 115 回で、5～6 日は火山活動とは直接関係はないと思われる新燃岳の西から北西約 7 km 付近に広く分布しました。23～24 日は韓国岳付近を震源とするごく浅い地震がやや増えました。また、御鉢付近のごく浅いところにややまとまって分布しました。

#### 新燃岳

新燃岳付近を震源とする火山性地震は、1 日あたり 0～4 回と少ない状態で経過しました。9 月の地震回数は 9 回（8 月：7 回）でした。これらの地震はいずれも微小な地震でした（図 2）。

新燃岳付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

#### 御鉢

御鉢付近を震源とする火山性地震の回数は 35 回（8 月：6 回）で、8 月よりやや増えました（図 1 の）。

御鉢付近を震源とする火山性微動は発生しませんでした。

### 地殻変動の状況

GPS 連続観測（気象研究所の観測点を含む）では、矢岳登山口 - 高千穂峰、高千穂峰 - 荒襲などの基線長は、今年 4 月頃から緩やかに縮みの傾向が見られます。昨年もほぼ同様の傾向がみられているため季節変動の可能性もあり、長期的に見守っていく必要があります（図 6）。

また、気象研究所の 3 点の傾斜計には、火山活動に起因する変化は観測されませんでした。

### 機動調査観測

9～13日にかけて機動調査観測を実施しました。昨年12月に形成された御鉢火口内の噴気孔（T8,T9）からは依然として勢いよく噴気が出ていましたが、3月9日及び3月31日に比べると、やや弱まっていました（写真1、2）。

噴気の高さ：50m

噴気の色：白色

噴気量：少量

噴気音：2（誰にでも聞こえる程度）

噴気臭：2（臭いがあるのを明らかに感じる程度）

噴気温度：83.8（T8,熱映像装置による）



写真1 左：2004年3月31日の現地観測で御鉢火口の北西側から撮影  
右：2004年9月10日の現地観測で御鉢火口の北東側から撮影



写真2 左：2004年3月31日の現地観測で御鉢火口内から撮影  
右：2004年9月10日の現地観測で御鉢火口内から撮影

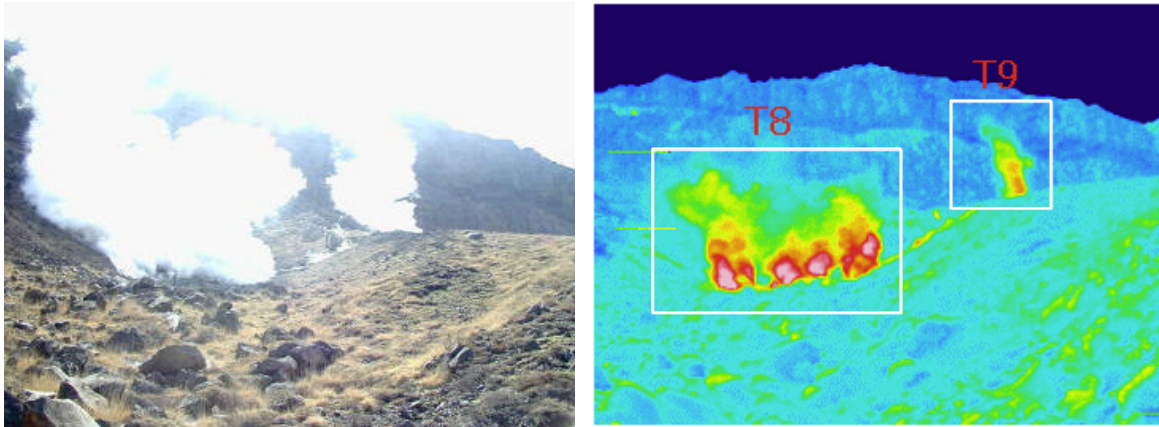


写真 3 2004 年 3 月 31 日の現地観測で撮影した御鉢火口内の写真と熱映像

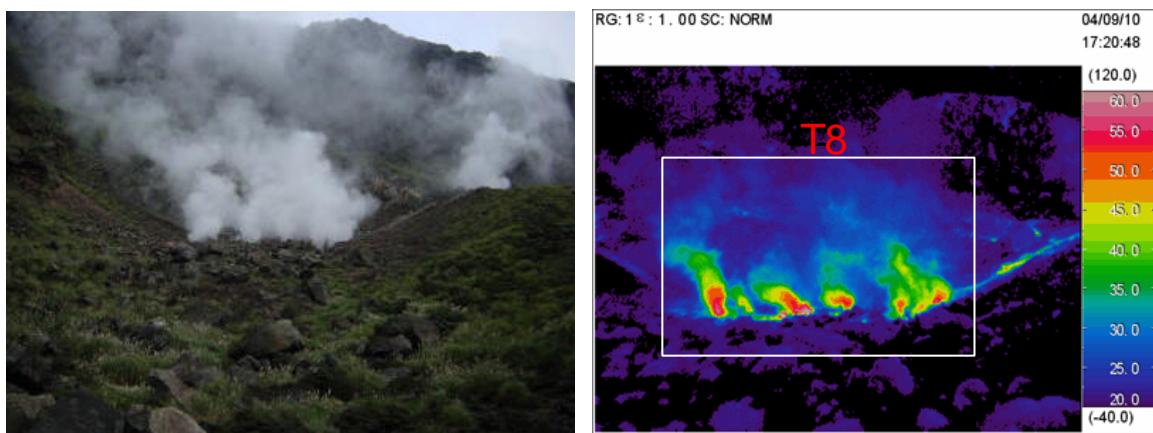


写真 4 2004 年 9 月 10 日の現地観測で撮影した御鉢火口内（T8）の写真と熱映像

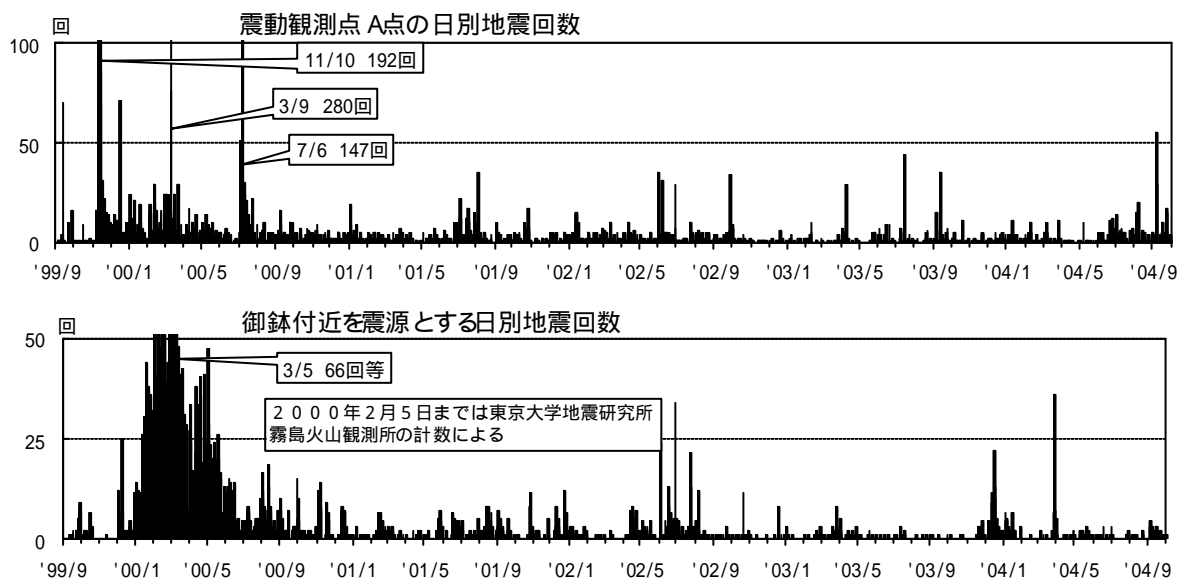


図 1 火山活動経過図(1999 年 9 月～2004 年 9 月)

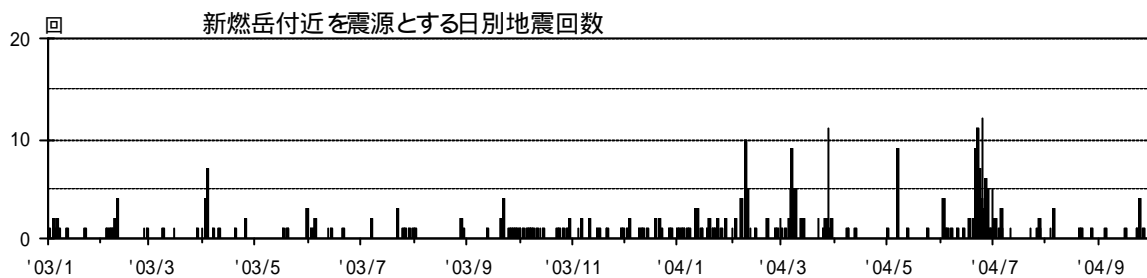


図 2 火山活動経過図（2003 年 1 月～2004 年 9 月）

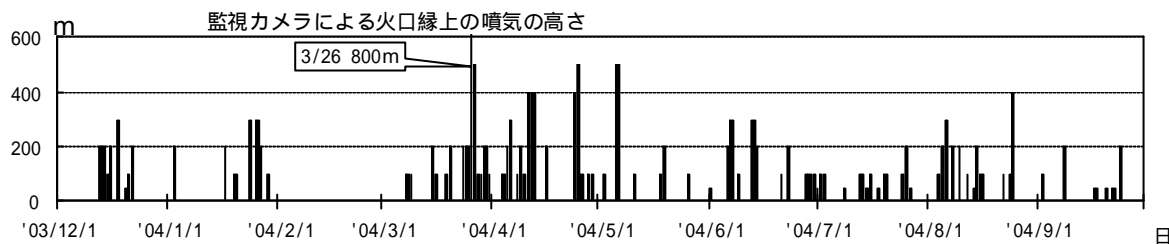


図 3 御鉢火口の噴気の最高高度(2003 年 12 月～2004 年 9 月)

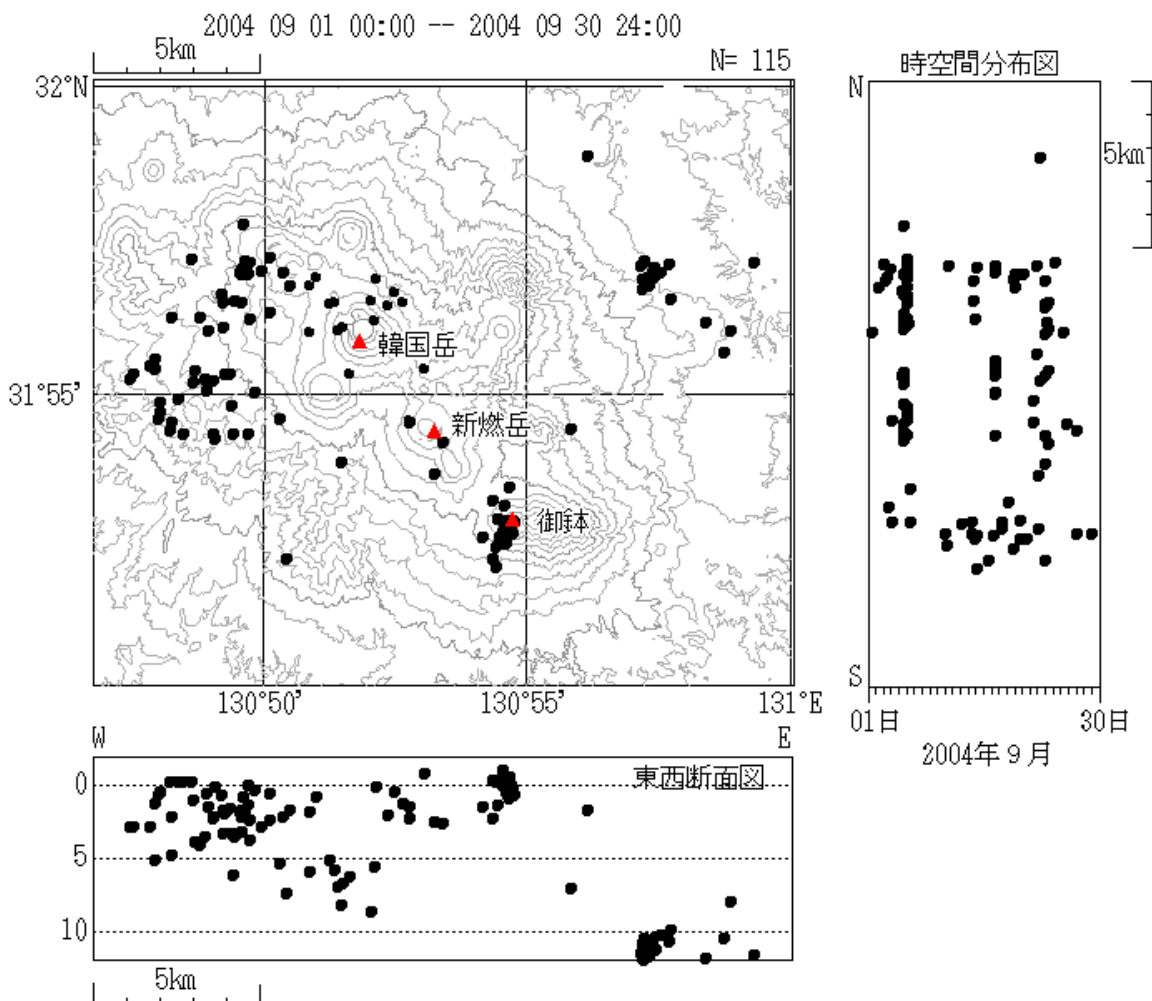


図 4 震央分布図（上）断面図（下）時空間分布図（右）  
（2004 年 9 月 1 日～9 月 30 日）

本資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、東京大学、気象庁のデータを用いて作成している。

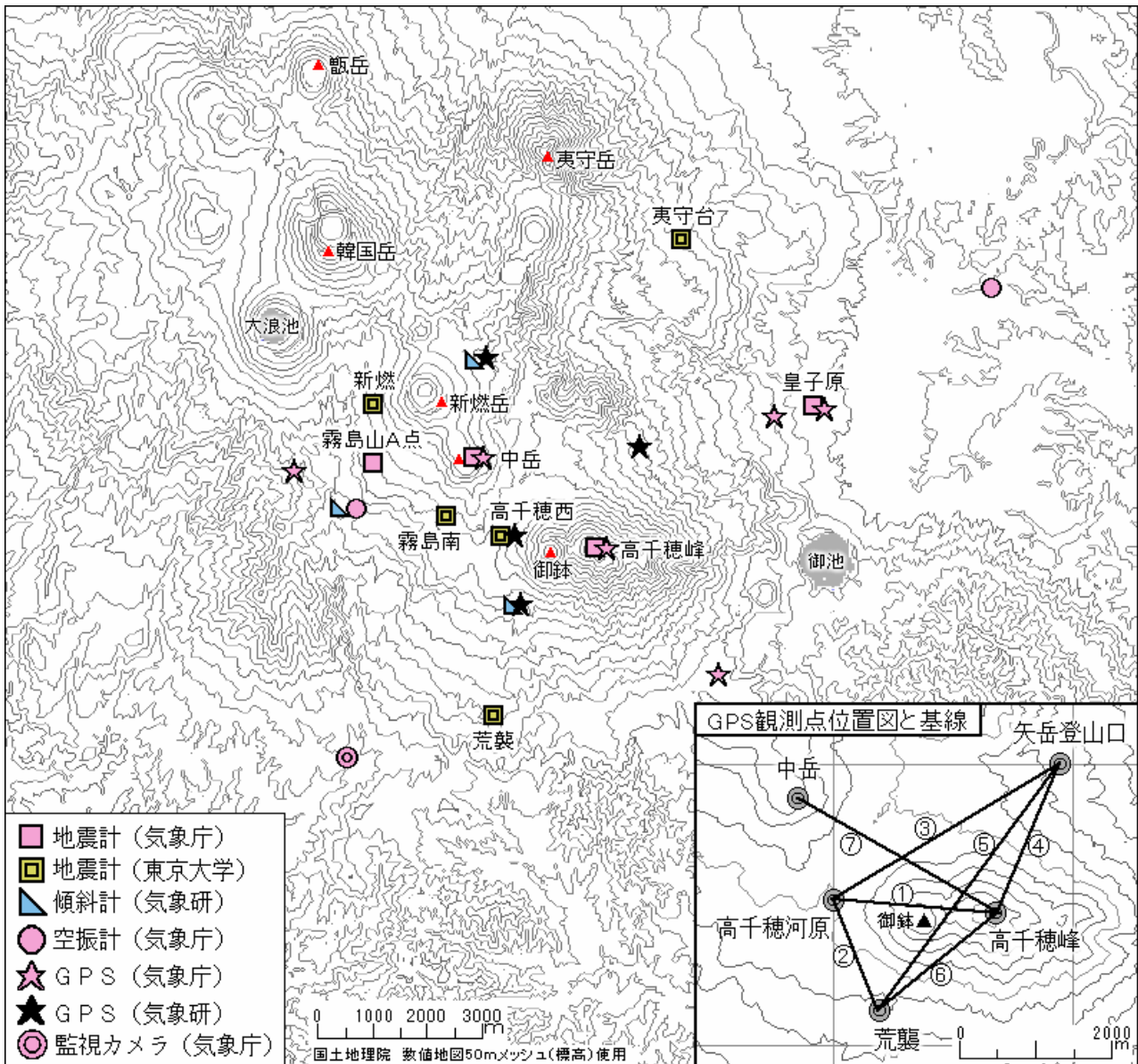


図5 霧島山広域観測点位置図(気象庁監視)

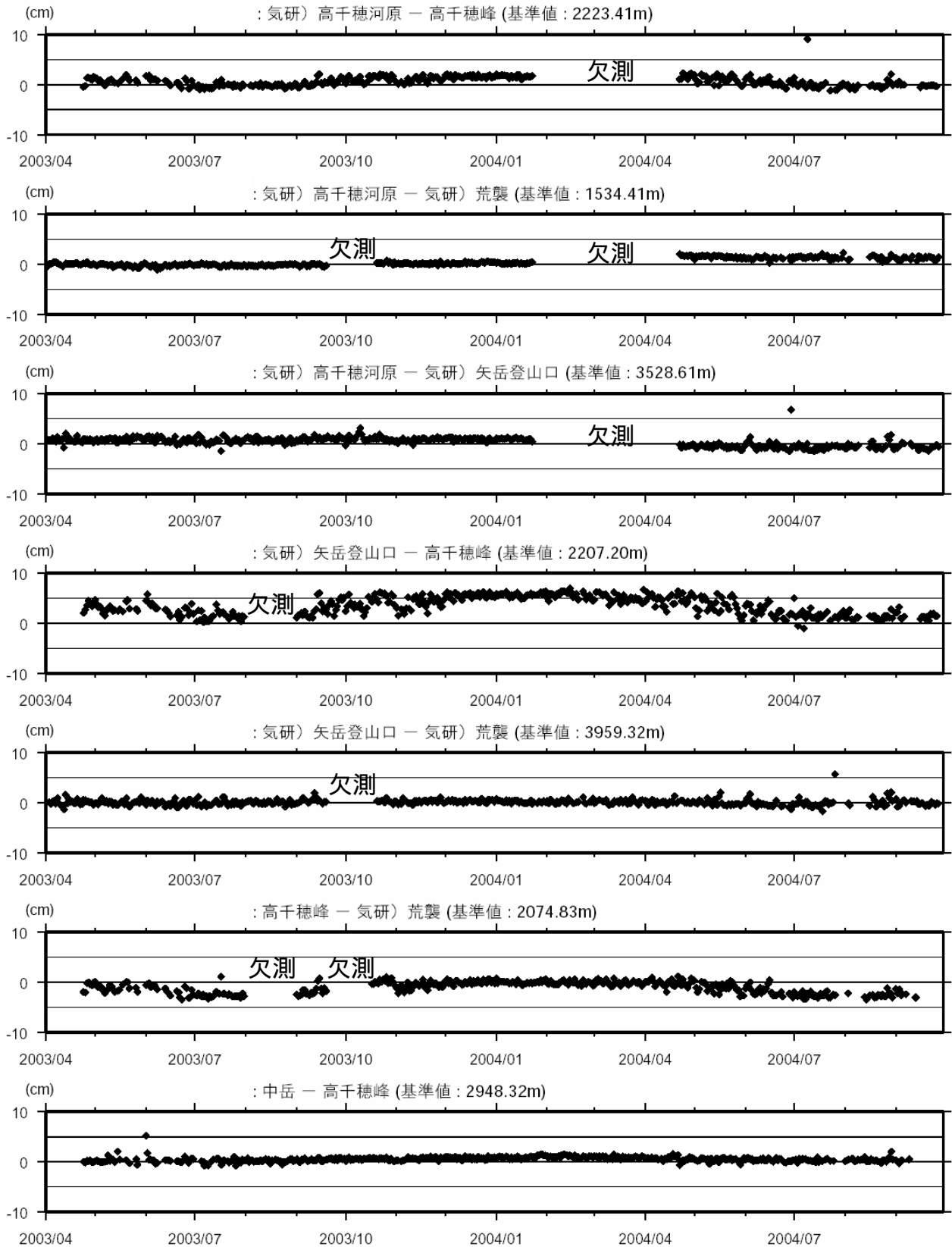


図6 GPSによる基線長変化(2003年4月1日~2004年9月30日)  
 ・気研)高千穂河原観測点は2004年1月23日から4月22日まで欠測